

重点目標	日本語の力、学力の向上を目指し、質の高い教育活動を推進する。	P
現 状	<ol style="list-style-type: none"> 1 全校幼児児童生徒30名が在籍。平成30年から3年間、高等部専攻科に在籍生徒がいない状況が続いたが、令和3年度に1名、今年度2名が入学し、中学部、高等部・高等部専攻科は4年ぶりに全学年そろった。 2 ICT活用推進モデル校2年目。12月に公開研究会を実施する。 3 創立110周年の年を迎え、記念事業を実施する。 	
具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 研究における取組を中心に、育てたい力と情報活用能力の側面から子どもたちの学びを検討し、対話の工夫や授業の振り返りで深い学びにつなげる授業実践を行う。学校評価において「日本語の力や基礎学力の向上」の全体平均を3.2以上にする。 2 ICT機器の活用推進に当たっては、学習活動において「育てたい力」につながる効果的な活用について実践を積み重ねる。学校評価の「ICT機器の活用」「学習環境の整備」の平均を3.1以上にする。 3 創立110周年記念事業では、幼児児童生徒が主体的に活動するよう、活躍する役割や場面を設定する。 	
目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> 1 各学部で「育てたい力」を明確にし、対話の工夫や授業の振り返りを充実させ、授業実践を積み重ねる。 2 ICT機器の活用推進に当たっては、学習活動への積極的な導入を進めるとともに、「深い学び・育てたい力」につながる効果的な活用について実践を蓄積し、検証する。 3 全職員で取り組めるよう、実行委員会による組織的な計画を立てる。 	
具体的な取組状況	<ol style="list-style-type: none"> 1 研究日や教科等研修日を年13回、全校授業研究会を年4回、一人1回の互見授業を行った。学習指導案に育てたい力を明記し、深い学びとのつながりを意識した授業づくりに取り組んだ。 2 図書情報部が機器操作の研修会を職員会議後に年6回実施した。また、一人一人がICTを活用した授業実践を行い、個々の記録を積み重ね、12月には公開研究会で、授業公開と学部のICT活用の実践報告を行った。 3 周年行事や全校ふれあい活動など縦割りの集団を生かし、立案、計画段階から生徒会執行部主導で話し合い、準備を進めた。 	

達成状況	<ol style="list-style-type: none"> 各学部で設定した育てたい力を記録や生徒自身の評価等から分析し、対話の工夫や振り返りを重視した授業実践で深い学びに迫ることができた。 I C T機器を学習活動に取り入れ、幼児児童生徒が直接触れる機会を積極的に創出した。機器を使う目的や効果的な方法についても、考えを深めることができた。 創立110周年記念式典では、事前のスローガン、ポスター、Tシャツ、記念品製作、当日の受付・接待、アトラクションの手話表現など全校幼児児童生徒が関わった。 	
------	--	--



自己評価	<p>(評価) A</p> <p>(根拠)</p> <ol style="list-style-type: none"> 学校評価における「日本語の力や基礎学力の向上」の全体平均は3.20であった。研修の機会は多くあったものの、日常的な指導における意識化及び日本語の力や基礎学力の定着は十分とは言えない。 学校評価における「I C T機器の活用」「学習環境の整備」の全体平均は3.31であった。昨年度と比較し、大きく評価が伸びた。 全ての周年行事に全校幼児児童生徒が主体的に活躍する役割や場面を設定することができた。 	C
------	---	---

↑ 評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない



学校関係者 評価と意見	<p>(評価) A</p> <p>(意見)</p> <p>「専攻科に進む生徒が増加している。今後も専攻科に進みたいと思える魅力ある教育課程の編成に努めてほしい。」 「聴覚障害者の仲間と触れ合える体験が大切である。」 「新しい時代に向けた制服見直しや、オンデマンドで自分が選択し、復習できる教材を作成していてもよいのではないか。」という意見が出された。</p>	C
----------------	---	---



自己評価及び 学校関係者評価に基づいた 改善策	<ol style="list-style-type: none"> 全ての教育活動において、多様なニーズに応じた丁寧な指導とことばを育む支援を行い、魅力ある学校づくりの推進と発信に務める。 聴覚障害教育の専門性の維持・継承のため、地域資源を活用した研修に取り組む。 聴覚障害の特性や目的に応じた効果的なI C Tの活用と効率的な学校運営を推進する。 	A
-------------------------------	--	---